公益財団法人

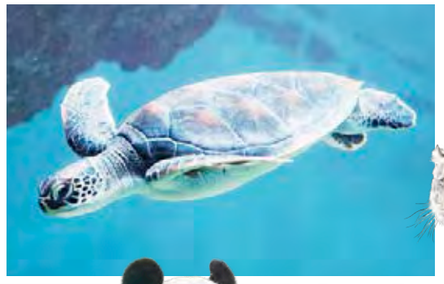
東京動物園協会

TOKYO ZOOLOGICAL PARK SOCIETY

www.tokyo-zoo.net
www.tzps.or.jp

FSC
www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を使用しています
FSC® C023103

2021年6月



TOKYO ZOOLOGICAL PARK SOCIETY

2021 Plan Overview

公益財団法人

東京動物園協会

令和3年度 事業概要

Ueno Zoological Gardens
Tama Zoological Park
Tokyo Sea Life Park
Inokashira Park Zoo

東京から、
人と動物の
「未来」のために。

開発や乱獲、地球温暖化による気候変動などにより、
地球上の数多くの動物たちが絶滅の危機に瀕しています。

そんな動物たちを守ろうとする取組みが、
動物園や水族園で行われていることを、
ご存知でしょうか？

今、動物園や水族園は、
希少野生生物の保護繁殖やその生息地の保全活動、
調査研究を行う場としても、大きな役割を担っています。

私たち東京動物園協会は、
都立動物園や水族園が培ってきた
調査研究や保全・保護に関する知識や経験を活かして、
人と動物の共存に貢献していきます。

TOKYO
ZOOLOGICAL
PARK
SOCIETY

私たちの使命

- Our Mission -

1. 動物園及び水族園事業の発展振興を図ること
2. 動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献すること

運営方針

東京動物園協会では私たちの使命に基づいた、3つの基本方針を掲げています。
その3つの基本方針を達成するため、4つの視点に基づいた具体的な取組みを推進していきます。

3つの基本方針 Basic policies

Basic policy: 001
展示の工夫と快適な観覧環境の提供による、
楽しみながら学べる動物園・水族園の実現

Basic policy: 002
国内外の動物園や研究機関との協力による、
野生生物の保全への貢献

Basic policy: 003
公益法人の制度的特性を活かした、
公益性と経営感覚をあわせ持った施設運営

4つの取組み Our efforts

Effort: 001 動物を「まもり、育てる」取組み

希少種を中心に飼育動物の繁殖に力を入れ、国が推進する保全活動にも積極的に協力することで、動物園外にも保全活動を広げ、生物多様性の保全に貢献していきます。

Effort: 002 動物のことを「伝える」取組み

来園者が野生生物本来の魅力を実感できる展示を実現します。また、来園するたびに新しい発見がある、新鮮な動物園をめざします。教育普及や飼育展示に携わる園内スタッフが来園者の発見をサポートし、誰もが動物のことを学べる場を提供します。

Effort: 003 「ようこそ」の心を表す取組み

「安心、安全、快適」が最も重要な来園者へのサービスと考え、より良い施設管理を実現します。園内のサイン、解説パネル、休憩施設などの整備を進め、積極的に来園者とのコミュニケーションを図り、親しみやすい雰囲気づくりを心がけます。

Effort: 004 「経営感覚」に富んだ取組み

活気あふれる動物園をめざし、様々な工夫を行っていきます。基金事業をはじめとする都民や民間企業との協働による企画などを積極的に推進します。

東京動物園協会の事業

3つの基本方針、4つの取組みに基づいて行われる東京動物園協会の事業は、
「公益目的事業」と「収益事業」に区分され、さらに「公益目的事業」には
「指定管理事業（都立動物園・水族園の管理運営事業）」と「固有事業（協会が独自に運営する事業）」が存在します。
なお、収益事業で得た利益は固有事業の運営資金として活用されています。

公益目的事業

指定管理事業 詳細はP04

恩賜上野動物園・多摩動物公園
葛西臨海水族園・井の頭自然文化園
上記4園の管理運営を行う事業

動物の飼育・展示
動物の健康に配慮した飼育管理と、動物の特性を引き出す展示をめざします。

野生生物の保全
野生生物の保全に取組むとともに、生物多様性の重要性を発信しています。

教育普及
動物やその生息環境について楽しく学べる機会を提供します。

園内サービス
サービス向上の取組みと、イベントの展開や広告宣伝による利用促進を行います。

安全・安心の確保
安全で快適な施設の維持管理に加え、災害に対する危機管理を行います。

固有事業 詳細はP12

動物園事業の発展振興と動物愛護思想の普及を
目的に財団として独自に行う事業

東京動物園友の会の運営
動物園・水族園における教育普及事業として観察会・見学会・講演会などの開催や普及誌の発行を行っています。

出版物の発行
雑誌「どうぶつと動物園」などの発行を通じて動物や動物園・水族館に関する情報を発信しています。

図書資料の収集・公開と映像記録資料の制作
動物や動物園に関する図書資料の収集・公開と動物園事業の記録のため写真や動画の撮影を行い、活用しています。

基金事業の運営
域内保全活動を主に支援する「野生生物保全基金」など、民間協働による基金活動を行います。

収益事業の利益を「固有事業」の
運営資金として繰入れ

収益事業 詳細はP14

固有事業を継続的に実施するため、ギフトショップ・レストランなどの運営を行う事業

ギフトショップの運営
園内のギフトショップの運営やオリジナル商品の開発を行います。

レストラン・フードショップの運営
園内レストラン・フードショップの運営やメニュー開発を行います。

その他のサービス
ベビーカーの貸出しなどの来園者サービスを行うほか、オリジナルグッズの通信販売を行います。

指定管理事業

動物の飼育·展示

都立動物園·水族園では、昆虫類などの無脊椎動物から哺乳動物まで、多岐に渡る分類群の生物を、４園が連携し、技術協力を図りつつ飼育展示をしています。動物が健康に生活し、繁殖活動ができるよう適切に飼育·管理し、動物の特性を引き出す展示の工夫も行っています。

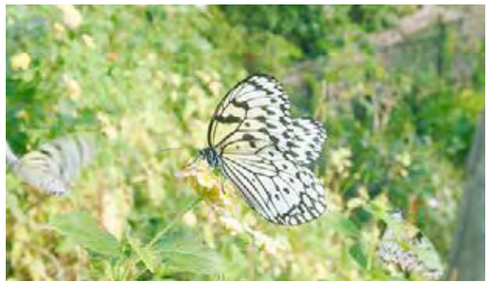
1 飼育展示·調査研究

動物の健康状態を良好に保ち、繁殖にも積極的に取組むとともに、環境エンリッチメントの取組みなど、種に応じ、動物福祉にも配慮した飼育環境を整えています。

Case

続々誕生！サバンナでのキリンの群れ展示

多摩動物公園ではチーターや、チンパンジー、ゴールデンターキンなど希少動物の繁殖に大きく貢献しています。中でもキリンの飼育数及び繁殖数はともに、日本で最も多く、令和元年度の６頭に続き令和２年度にも新たに３頭のキリンが誕生しています。また、キリンの国内外での繁殖を推進するため、多摩動物公園で産まれた個体を様々な動物園に搬出しています。



Case

一年を通じてチョウが舞う 昆虫生態園の大温室

亜熱帯地方の植物が植えられた多摩動物公園·昆虫生態園の大温室では、真冬でもたくさんのチョウが飛び交う姿を見ることができます。成虫になってからのチョウの寿命は短い種では２週間ほど。このため、バックヤードでは成長の度合いが少しずつ異なる多くの世代の幼虫やさなぎを飼育し、一年中成虫を展示できるようにしています。

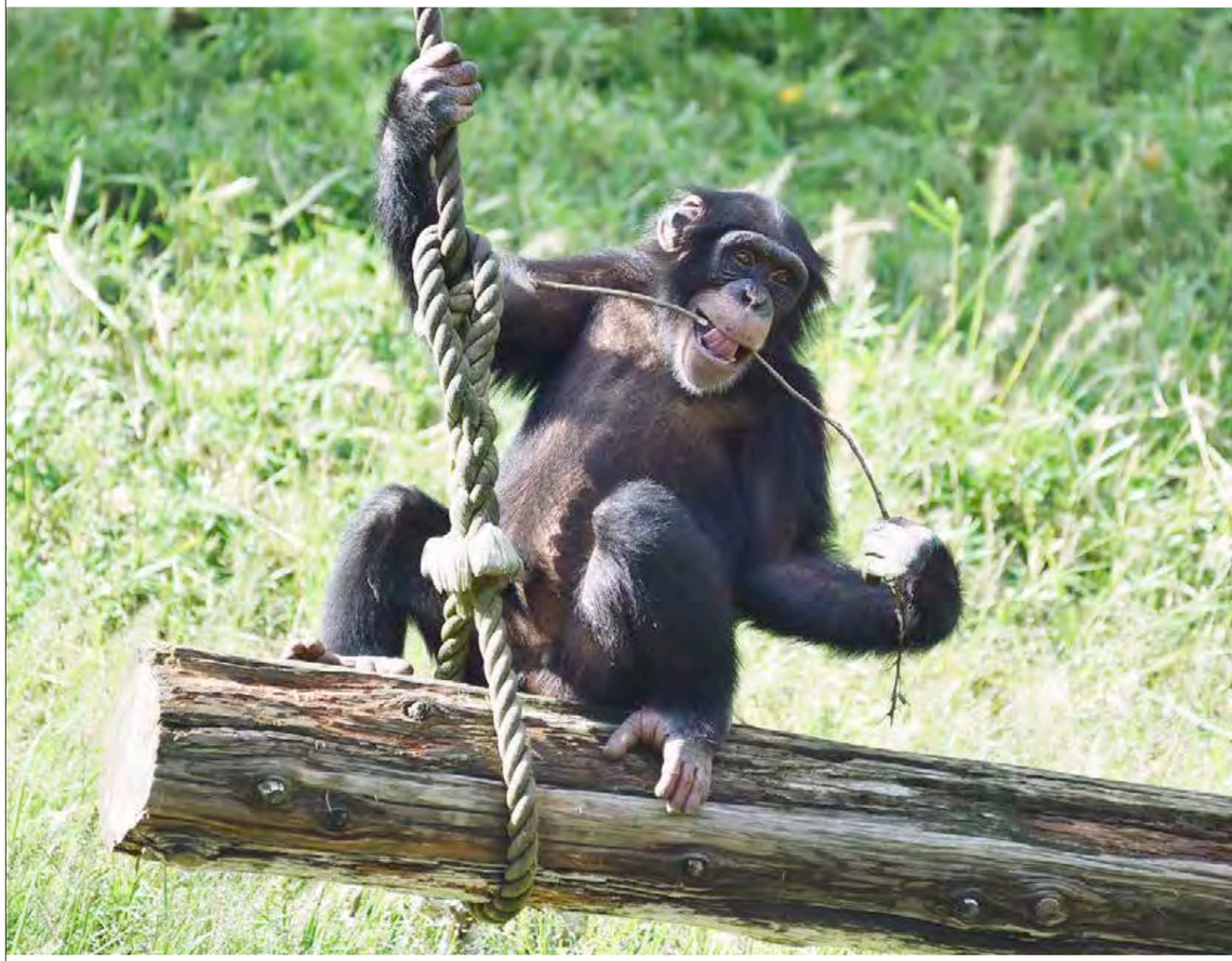
2 展示動物の収集·管理

展示計画策定や展示動物の収集とともに、動物園間の動物の交換·貸借の調整や飼料調達、血統や動物台帳への登録·管理などの事務手続きも行います。

Case

調査船「若鷹丸」での深海生物採集

都立動物園·水族園では魅力的な展示を行うため、国内外の関係機関と連携して、展示動物を収集しています。葛西臨海水族園では、包括連携協定を締結している水産研究·教育機構の調査船「若鷹丸」の資源量調査に同行し、アツモリウオやカイメンホンヤドカリなどの深海生物を収集し、持ち帰った生体を「深海の生物トピック水槽」で展示しました。



3 動物病院の運営

動物の衛生管理や治療はもちろん、検疫業務や病理解剖、検体の保存、獣医技術の研究開発や感染症調査など、野生生物の保全活動への協力も行っています。

Case

ＣＴを活用した疾病の正確な診断と治療

獣医師と飼育職員が連携し、動物の衛生管理や病気の予防策、適切な治療を行っています。恩賜上野動物園の動物医療センターには、国内動物園では初めてCT（コンピューター断層撮影）装置を導入し、重大疾病の正確な診断と治療に役立てています。ベンガルヤマネコが骨折した際には、骨折部位を確認する上でCTスキャンをもとに作成された３D画像が治療に大いに役立ちました。

指定管理事業

野生生物の保全

多くの野生生物が絶滅の危機にあり、近年その勢いが加速しています。都立動物園・水族園では「野生生物保全センター」を中心に、これまで培ってきた知識・技術を活かし、平成30年度に都が策定した「第２次ズーストック計画」の推進などを通じて、野生生物の保全に貢献しています。

1 野生生物保全センター

都立動物園における野生生物保全活動を一層推進するため、平成18年に多摩動物公園に設置されました。各園の活動の調整を行うセンター機能を果たしています。

Case

長年培ってきた技術を活かした野生生物保全センターでのトキの分散飼育

野生生物保全センターでは、都立動物園・水族園が重点的に保全すべき「保全対象種」を定め、各園の役割分担を行うとともに、保全に関する普及啓発活動にも主体的に取組んでいます。また、4種の保全対象種の飼育・繁殖を担当し、トキの分散飼育では長年培ってきた飼育技術により雛が毎年成育し、佐渡での野生復帰（放鳥）に大きく貢献しています。

2 生息域外保全活動

動物園内における飼育繁殖など、生息地の外で行う保全活動を生息域外保全活動といい、保全の対象とする生物を定め、各園において繁殖と個体群の管理に努めています。

Case

日本産ライチョウの生息域外保全

恩賜上野動物園では、国（環境省）の進めるライチョウ保護増殖事業に参画し、ライチョウの飼育・繁殖に取組んでいます。2020年には当園で飼育しているライチョウが生んだ卵を中央アルプスの木曽駒ヶ岳まで移送し野生に戻す試みを行いました。他にも国の保護増殖事業のもと、トキやツシマヤマネコ、アカガシラカラスバトなどの飼育・繁殖に各園が取組んでいます。

3 生息域内保全活動

長年の飼育や繁殖から得た知見や技術を活かし、東京産のイモリやメダカなど希少動物の保全活動を生息地域内で行っています。

Case

アカハライモリの生息域内保全

かつてはごく普通に身近に見られたアカハライモリ。都内ではわずかとなった生息地で生息状況を調査するとともに、生息環境の改善にも取組んでいます。また、国内外の団体と連携し、アカガシラカラスバトやルリカケス、ニホンコウノトリなどの疾病個体の受入れや飼育、医療技術の指導、血統管理のための個体交換など、様々な形で保全活動に協力しています。

4 調査研究・生物工学技術の応用

DNA解析システムなどを用いた調査研究や技術開発に努めるとともに、繁殖に関わるバイオテクノロジー技術を希少動物の保全に役立てています。

Case

バイオテクノロジーによる「ストレスのない妊娠診断」の実現

配偶子や体細胞の冷凍保存技術、糞中の性ホルモン濃度測定による妊娠判定や発情周期の解明などのバイオテクノロジー技術を開発し、大学や研究機関等と様々な共同研究を行っています。糞中や尿、血液など動物種に応じたサンプルからホルモン測定を行い、アジアゾウの性成熟やネコ科動物の妊娠測定など、動物にストレスフリーな分析技術を確立し、繁殖に役立てています。

5 国際的なネットワーク

都立動物園・水族園は、世界動物園水族館協会（WAZA）ほか、国際会議に積極的に職員を派遣し、培ったネットワークを活用して国際的な種の保存事業にも貢献しています。

Case

アジアで唯一の、「タスマニアデビルを守る」動物園

多摩動物公園では、顔面腫瘍の蔓延などにより絶滅の危機に瀕しているタスマニアデビルの保全プログラムに、アジアの動物園では唯一参画し、飼育展示を通した普及啓発活動に努めています。また、恩賜上野動物園では、WAZAの国際血統管理計画に参画し、スマトラトラの繁殖に取組むほか、海外の動物園・水族館との連携協定の締結などにより、国際的な保全活動を積極的に推進しています。

指定管理事業

教育普及

教育普及活動は動物園・水族館の役割の大きな柱です。都立動物園・水族園では教育普及センターを設置し、大人から子どもまで、幅広い来園者が楽しみながら学べる多彩なプログラムを開発・実施しています。

1 園内プログラム

園内プログラムやイベントを通じた動物に関する情報の発信や動物相談室の運営を担っています。

Case

テーマを設けてじっくり動物を観察する「動物解説員のガイドツアー」

飼育担当者が動物の解説をするキーパーズトーク、動物の食事を観察するフィーディングタイムなどのプログラムを実施しています。動物について分かりやすく伝える専門のスタッフ「動物解説員」によるガイドツアーでは、テーマに沿ってお客様の興味に合わせながら動物を観察します。

2 体験プログラム・フィールドプログラム

園内での体験型プログラムや野外での観察会など、自然を知り、学ぶためのプログラムを開催しています。

Case

園内のフィールドを活用した「セミとコウモリの観察会」

都会の中での身近な野生生物を観察して楽しんでいただくために、恩賜上野動物園では夏の時季に、閉園後の園内で「セミとコウモリの観察会」を開催しています。不忍池の周辺でセミの羽化や野生のコウモリを観察するプログラムで、子どもたちのフィールドへの入り口になっています。

3 学校教育との連携

職場訪問・体験指導の受入れや、パッケージプログラム開発、アウトリーチ活動などを実施しています。

Case

学校の教科書に準じた視点で展示や生き物を紹介する「学校の授業に活かせる動画集」

令和２年度はコロナ禍によって来園が難しくなった学校団体に向けて、教科書に準じた視点にもとづき、動物園・水族園の展示や生き物を紹介するYouTube動画製作と公開を始めました。また、令和３年度は小学校の教員の方々を対象にしたセミナーをオンラインで開催する予定です。

4 移動水族館

移動水族館車両により、普段、水族園に足を運べない方々に、海の生物に親しむ機会を提供しています。

Case

うみくる号といそくる号が「うみ、とどけます」

葛西臨海水族園では、移動水族館車両「うみくる号」と「いそくる号」により社会福祉施設や病院などを訪問し、障害や病気などのために来園することが難しい方々のために「展示解説プログラム」や「磯の生物とのふれあいプログラム」を実施しています。令和元年度には事業開始以降、累計参加者数が10万人に達しました。

5 ボランティアによる教育普及活動

ボランティア団体と協働し、「スポットガイド」など来園者に向けた教育普及活動を行っています。

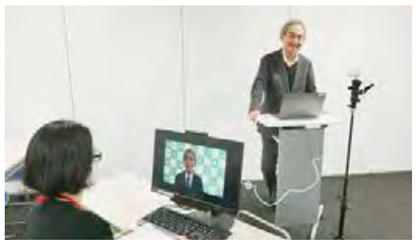
Case

日本初の動物園ボランティア「東京動物園ボランティアーズ」

都立動物園（上野・多摩・井の頭）で活動する東京動物園ボランティアーズ（1974年発足、約720名）、および葛西臨海水族園で活動する東京シーライフボランティアーズ（2007年発足、約140名）と連携して、園内での教育普及活動を行っています。各団体に活動経費の支援を行うほか、ボランティア活動に必要な育成研修も行っています。

6 ４園連携による幅広い教育普及活動の展開

教育普及センターのもと、４園が連携し、幅広い教育普及活動を展開しています。



Case

教育普及シンポジウム「動物園水族館における動物を介した教育活動」

動物とのふれあいを通して生き物への興味や自然を守る気持ちを高めてもらうことは動物園・水族館の大切な役割です。令和２年度は動物とのふれあい活動における教育効果や活動理念、今後の可能性について全国の動物園水族館関係者同士でディスカッションする機会を設けました。

指定管理事業

園内サービス

多くの方にホスピタリティあふれるサービスを提供できるよう、「ようこそ」の心を持った案内・接遇に取組んでいます。また、様々なメディアを活用した広報・広告や季節にあわせたイベントの展開により利用促進に努めています。

1 入園券の売改札、利用案内・園内サービス

入園券の販売や入園料の納入業務、園内の案内やサインの整備などを行っています。

Case お客様をお迎えするための様々な研修の実施

多様なお客様をおもてなしするため、各園の接遇部門のスタッフは、サービス接遇検定資格を取得するほか、語学研修や手話講習、アナウンス研修等を受講することにより、一歩進んだ接客マナーの習得に取組んでいます。

2 利用者満足度向上への取組み

様々な機会に来園者の要望を捉え、各園の管理運営に反映させています。

Case サービス向上委員会の取組み

利用者アンケートだけでは把握できない、新たな来園者ニーズを捉えるため、サービス向上委員会を設置し、独自の満足度調査を実施しています。またその調査結果の分析から、新たなサービスとしてInstagramによる情報発信を開始しました。

3 広報・情報発信

ウェブサイトやSNS、プレスリリースなど様々な手段を活用し、各園のニュースやイベントなどの情報を発信して、都立動物園・水族園の魅力を広く伝えています。

Case 都立動物園・水族園の公式サイト「東京ズーネット」

ウェブサイト「東京ズーネット」は、4園の最新の動物情報やイベント情報をはじめ、協会が取組む事業など、最新情報を発信するとともに、動画や音声などを活用して都立動物園・水族園の魅力を伝えるコンテンツの充実を図っています。

4 利用促進

季節や展示動物のトピックスにあわせたイベントの開催により、多様な利用者へ都立動物園・水族園の魅力を伝える取組みを行っています。

Case 海外からのお客さまへのおもてなし

訪日外国人来園者の割合が最も高い上野動物園では、東京2020大会を見据え、期間限定で「Tokyo Zoo Welcome Center」を開設し、英語・中国語に対応可能なスタッフによる園内や周辺観光の情報提供を実施しています。

5 広告

様々な外部媒体を活用し、都立動物園・水族園に関する積極的な広告活動を通じて、幅広い層への情報発信に努めています。

Case 保全に関する取組みの「広告」

都立動物園・水族園の魅力を広くアピールし、集客を図るだけでなく、私たちの行っている取組みを伝えることも「広告」の一つです。多くの人々が行きかう新宿駅西口の掲示板では、都立動物園・水族園が取組む様々な生物多様性保全活動を紹介しています。

安全・安心の確保

動物舎などの施設、設備の適切な維持管理に加えて、来園者の適切な整理・誘導、巡回警備を行います。また、自然災害やテロなどの人為的災害、サイバー攻撃などの様々なリスクを想定した危機管理対策を推進しています。

1 施設・設備の維持管理

動物舎や園路広場、電気、機械、空調、上下水道、樹木、花壇などの維持管理を行っています。

Case 適正な施設管理による快適な環境整備

日々の施設点検により、設備の故障、枯枝の落下や倒木、園路の不陸などによる事故の未然防止や補修を行うとともに、バリアフリー対策、照明のLED化、植栽改善など施設のレベルアップにも取組んでいます。

2 保安・環境美化

来園者の整理・誘導や巡回警備、清掃や動物舎の寝わらなどの廃棄物処理業務を担っています。

Case 事前予約整理券による感染拡大防止対策

新型コロナウィルス感染拡大にともなう臨時休園後の再開園にあたり、上野動物園と葛西臨海水族園では、事前予約整理券システムを導入し、時間ごとの入場者数をコントロールすることで、密を防ぎ、安心して園内を観覧できる環境の維持に努めました。

3 自然災害対策

気象災害や首都直下型地震などのリスクに備え、事業継続計画に基づき各種訓練を実施しています。

Case 緊急事態発生時を想定した事業継続訓練

災害発生時にも飼育生物を守り、最短で事業の復旧を図るため、あらゆる災害を想定した訓練を継続して行っています。

4 テロ対策

東京2020大会に向けて、来園者の安全を守るためテロ対策を推進しています。

Case 警察との連携によるテロ対策の実施

警視庁の指導のもと、爆発物や凶器によるテロを想定した訓練の実施やマニュアルの整備を行い、対策に取組んでいます。

5 情報セキュリティ

不正アクセスやサイバー攻撃などの情報セキュリティに対する脅威に備え対策を講じています。

Case サイバー攻撃対策勉強会

外部公開サイトに対する攻撃の動向や脅威について理解を深め、実際にサイバー攻撃を受けた際のインシデント対応を確認しました。

固有事業

公益目的事業における固有事業は、協会の自主財源に基づく主体的な事業を展開しています。財団法人発足当初から継続している出版物の発行や会員組織の運営、資料収集や公開など、従来の教育普及事業を柱の一つとして情報発信に取組んでいます。また、野生生物保全への貢献を目的とした基金制度を通じて、保全活動支援や普及啓発事業を推進するとともに、動物園サポーター制度による飼育環境の向上や動物園支援者の育成を進めています。

東京動物園友の会の運営

昭和27年に「動物園愛好会」として発足し、以来「東京動物園友の会」へと続く現会員組織は、動物園における教育普及事業を推進するために観察会・見学会・講演会の開催や普及誌の発行を行っています。

Case

教育普及事業を担う国内有数の会員組織

動物や動物園・水族館に関心のある方を対象とした「東京動物園友の会」は、観察会や見学会などを開催して広く野生生物の魅力を伝えるとともに、普及誌の発行を通じて、動物園における教育普及事業の一端を担っています。大人の方からお子様まで、幅広い層を対象に普及活動を継続しており、令和3年3月末現在、一般会員は3,572名、ジュニア会員（中学生以下）242名に達しています。

出版物の発行

雑誌「どうぶつと動物園」「ZOO! どーぶつえんしんぶん」の発行を通じて動物や動物園・水族館に関する情報を発信するとともに、動物学分野の最新知見をお届けしています。

Case

「どうぶつと動物園」「ZOO! どーぶつえんしんぶん」の発行

昭和24年創刊の「どうぶつと動物園」は、動物園発の普及誌です。都立動物園のみならず国内外の動物園・水族館の情報をお伝えするとともに、動物学の最新研究成果も掲載しています。平成20年、動物に関する関心を育てていただくために、お子様を対象とした雑誌「ZOO! どーぶつえんしんぶん」を創刊。両誌はそれぞれ東京動物園友の会一般会員の方とジュニア会員の方にお送りしています。

図書資料の収集・公開と映像記録資料の制作

動物及び動物園・水族館に関する内外の書籍や雑誌、部内資料を収集・公開するとともに、動物園事業の記録のために写真撮影と動画撮影を行い、教育普及事業や広報活動に活用しています。

Case

収集し記録し、保管して活用する

動物や動物園・水族館に関する国内外の図書や雑誌を収集保管するとともに、飼育動物の生態、催し物などを写真や動画で記録し、活用しています。図書資料は恩賜上野動物園資料室で一般の方への閲覧にも供しています。写真や動画は、協会発行の印刷物やウェブサイトに利用するだけでなく、広報発表時の提供資料、関連施設への情報提供資料、職員による研究発表資料、外部への貸出などに広く活用されています。

基金事業の運営

寄付金や収益事業からの繰入金を資金として、野生生物保全活動の支援や教育普及活動に取組んでいます。動物園における飼育環境の改善や生息域外での保全活動のみならず、生息域内で活動する個人や団体も支援しています。

〈域内保全活動の支援〉

東京動物園協会野生生物保全基金

野生生物の保全活動を積極的かつ継続的に行う個人の方や団体への支援および保全への協会の主体的な取組みを推進するために基金制度を運用しています。

Case

人と動物の共存への貢献を目指した保全活動の支援

東京動物園協会の設立趣旨の一つ「人と動物の共存への貢献」を推進するために、野生生物保全活動に取組む個人や団体への支援および協会との協働を目的とした基金制度です。趣旨にご賛同いただいた方々による貴重な寄付金をもとに、国内外での保全活動を積極的に支援するとともに、報告講演会の開催などを通じて保全活動の価値を多くの人に伝えることも目的としています。

助成対象活動実績例

・絶滅危惧種イタセンパラと共に生きる（愛知県立一宮高等学校生物部）
・トウキョウトガリネズミの繁殖生態に関する研究（河原淳）
・ボルネオ島ダナムバレイ保護区に生息する野生オランウータンの密度調査
（特定非営利活動法人日本オランウータン・リサーチセンター）

〈都立動物園・水族園における飼育動物の支援〉

ジャイアントパンダ保護サポート基金

絶滅の危機にあるジャイアントパンダの保護を目的として、教育普及活動や飼育環境の向上、東京都を通じた国際的な保全活動への支援に取組んでいます。

Case

絶滅が危惧されるジャイアントパンダを守るための取組み

個人や企業からの寄付金、企業広告や園内イベントを通じた協賛金、及びオリジナルドネーション商品売上からの繰入などを積み立て、国際シンポジウムなどの教育普及事業を実施するとともに、恩賜上野動物園ジャイアントパンダ舎における飼育環境の向上や、東京都と中国が共同で進める国際的な繁殖研究プロジェクトへの支援に活用しています。

動物園サポーター事業

都立動物園・水族園への支援を通じて動物園事業への理解を促進し、広く参画意識を醸成するとともに、次世代の動物園支援者を育成する事業です。

Case

市民・団体の支援による飼育環境改善

都立動物園・水族園各園に動物園サポーター制度を設置して、個人の方や団体・法人からの資金的支援を受入れ、飼育環境の改善などのために活用しています。寒さに弱いミーアキャットの飼育環境改善のために井の頭自然文化園で令和2年度に実施した室内展示場の展示窓の改修はその一例です。また、動物について登録者に伝えるイベント「サポーターズデイ」を各園で実施しています。

収益事業

都立動物園・水族園におけるギフトショップやレストラン・フードショップの運営、オリジナル商品やサービスの企画・開発などを行っています。収益事業によって得た収益は、公益目的事業の固有事業に繰入れられ、事業を通じて都民に還元されています。

ギフトショップの運営

都立動物園・水族園での楽しい思い出を持ち帰っていただくため、恩賜上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園におけるギフトショップの運営や、井の頭自然文化園におけるファーストフード店「こもれび」に併設されたギフトコーナーの運営を行っています。ギフトショップ・ギフトコーナーでは、「ここにしかない」様々な都立動物園・水族園グッズを販売しています。

〈オリジナルギフト商品の企画・開発〉

ギフトショップ・ギフトコーナーで販売するぬいぐるみや菓子、衣料などのギフト商品の企画・開発を行っています。飼育担当者の協力を得ながら制作するリアリティを追及した商品のほか、期間・季節限定の展示やイベントと連動した商品の開発にも取組んでいます。恩賜上野動物園では、売り上げの５％が「ジャイアントパンダ保護サポート基金」に寄付されるジャイアントパンダのドネーション商品も数多く販売しています。

ほんとの大きさパンダの仔 147g/284g/608g

「命の重さとその成長を感じてほしい」というコンセプトでシャンシャンの２日齢、10日齢、20日齢のぬいぐるみを制作しました。

てぬぐい

動物のモチーフだけでなく、背景に展示環境を反映しています。それぞれの園に合わせたてぬぐいは大人の方にも人気です。

オリジナルグッズ

各園オリジナルデザインの商品のほか、展示・イベントに合わせた限定商品など、様々なバリエーションをそろえています。

レストラン・フードショップの運営

来園者のニーズに応え都立動物園・水族園ならではの美味しく楽しいメニューをお届けできるよう、恩賜上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園におけるレストラン・フードショップの運営を行っています。「食」の提供を通じて、都立動物園・水族園でのひとときをより豊かなものにしています。

〈フード商品の企画・開発〉

レストラン・フードショップで提供するメニューは、安心で安全なものをスピーディーに提供できるように企画・開発を行っています。野生生物をモチーフとした美味しく楽しいメニューのほか、季節やイベント限定メニューなどの開発に取組んでいます。

オムハヤシライオン

かわいいライオンをあしらった「オムハヤシライオン」は多摩動物公園（サバンナキッチン）の人気メニューです。

竹皮弁当

ゾウ・パンダ・コアラなど、それぞれの園の人気動物がモチーフの竹皮で包まれたお弁当は、家族連れにも大変人気です。

ペンギンのすみかワッフルプレート

展示やイベント、シーズンに合わせた、ユニークで可愛らしいデザートは四季折々の味わいも楽しめます。

その他のサービス

来園者サービスの一環として、園内でベビーカー貸出しやコインロッカーでの荷物預り、フォトサービスのほか、オリジナル商品の通信販売サービスを行っています。

ライオンバスの運行

多摩動物公園において、サファリ形式のライオンバスを運行しています。

ベビーカーの貸出し

ベビーカーの貸出しサービスを恩賜上野動物園及び多摩動物公園において行っています。

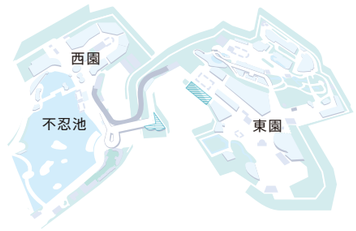
通信販売サービス

ウェブサイト「Tokyo Zoo Shop」では、オリジナルグッズの通信販売サービスを行っています。

恩賜上野動物園

Ueno Zoological Gardens

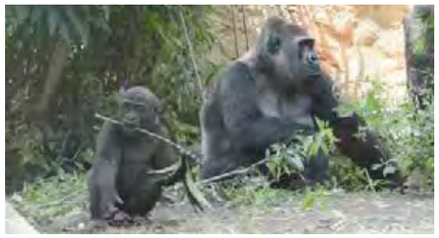
長い年月をかけて培ってきた技術を活かして、様々な動物の飼育・展示を行う日本を代表する都市型の総合動物園。多くの動物の繁殖に成功しており、動物の多様な魅力とともに、野生生物保全の重要性を国内外に発信しています。



開園年月日 明治15年(1882年)3月20日　所在地 東京都台東区　面積 14.4ha　来園者数 525,999人(令和2年度)

飼育動物 333種 2,746点(令和3年3月31日現在) 内訳:哺乳類103種・鳥類106種・爬虫類70種・両生類40種・魚類8種・無脊椎動物6種

ジャイアントパンダ


ニシゴリラ

ハシビロコウ

東園

明治15年(1882年)に開園した日本で最初の動物園です。巨樹が鬱蒼とした上野公園の丘陵地に位置しており、江戸時代に再建された国重要文化財の旧寛永寺五重塔や藤堂高虎が建立し、1878(明治11)年に再建された閑々亭など上野の山の歴史を感じさせる史跡が点在しています。

表門広場を入ってすぐの「日本の動物」では、五重塔をバックにエゾシカやニホンカモシカ、日本の野鳥を展示するほか、ゴリラやトラの生息地の景観をイメージした「ゴリラ・トラの住む森」、熱帯から寒帯にかけて広く分布するクマたちの生息地を再現した「クマたちの丘」、ホッキョクグマが水中で見せるダイナミックな行動を間近に観察することができる「ホッキョクグマとアザラシの海」などの施設があります。また、緑と土の放飼場にいるゾウをさまざまな角度から観察できる「ゾウのすむ森」では、令和2年10月31日に当園で初となるアジアゾウの子ども「アルン」が誕生しました。

西園

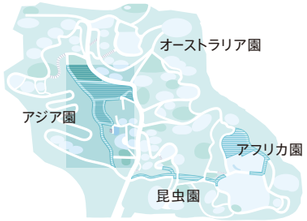
ハスが茂り、野鳥も飛来する風光明媚な不忍池の北側の区域で、開放感溢れる景観を楽しめるエリアです。

令和2年9月に新施設「パンダのもり」がオープンしました。中国四川省の生態系をモデルにした施設で、ジャイアントパンダだけでなく生息地の近いレッサーパンダ、キジ類も展示しています。キリン・サイ・カバ・オカピ・ハシビロコウなどのアフリカ産の動物、50種以上の小型の動物を展示する「小獣館」、ジャングルのような雰囲気が特徴の「両生爬虫類館(ビバリウム)」、マダガスカル固有の動物を展示する「アイアイのすむ森」などがあります。戦後まもなく日本で初めて誕生した「子ども動物園」は平成29年7月に「子ども動物園すてっぷ」としてリニューアルオープンし、子どもたちが動物と身近に親しむことによって、動物をいたわる気持ち、自然を愛する気持ちを育む「学び」の機能をよりいっそう充実させました。

多摩動物公園

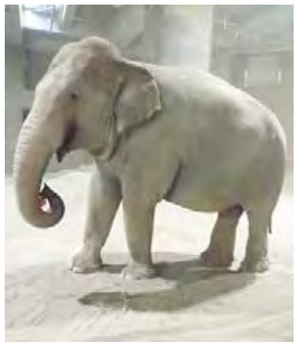
Tama Zoological Park

無柵放養式を日本で初めて全面的に取り入れた動物園です。豊かな自然と広い敷地を活かし、数多くの動物の繁殖を毎年行っており、都立動物園における、野生生物保全の拠点として機能しています。

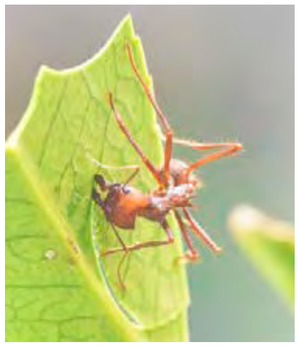


開園年月日 昭和33年(1958年)5月5日　所在地 東京都日野市　面積 52.4ha　来園者数 422,752人(令和2年度)

飼育動物 292種 18,721点(令和3年3月31日現在) 内訳:哺乳類60種・鳥類88種・爬虫類5種・両生類8種・魚類5種・無脊椎動物126種


アジアゾウ

ライオンとライオンバス


ハキリアリ

アフリカ園

アフリカのサバンナや熱帯雨林に生息する哺乳類を中心に展示しています。アフリカゾウの放飼場ではプールで水浴びする姿や吊るした丸太を鼻で揺するダイナミックな動きをご覧になれます。約20頭のチンパンジーがくらす「チンパンジーの森」では、野生と同じようなチンパンジーの社会的行動を観察することができます。チーターの放飼場では走る姿だけでなく、そのスマートな体をガラス越しに間近でご覧いただけます。ライオン園はリニューアル工事を終え、令和3年度オープン予定です。現在、サバンナエリアを再整備中です。

アジア園

アジアの動物を紹介するエリアです。令和3年度には、新しくアジアゾウ舎がオープン予定です。また、オランウータンが高さ約15メートルのロープを渡っていく様子を観察することができる空中展示「スカイウォーク」、ユキヒョウやゴールデンターキンなどを展示する「アジアの山岳」、マレーバクやインドサイのほかウォークスルーのバードケージで鳥類を間近に観察できる「アジアの沼地」、群れでくらすモウコノウマやタイリクオオカミを展示する「アジアの平原」などの施設があります。また、「モグラのいえ」では日本産のモグラが活動する様子を見ることができます。

オーストラリア園

コアラ、カンガルー・ワラビー、タスマニアデビルなど、オーストラリアを代表する有袋類を展示しています。

昆虫園

昆虫生態園には林や草原など昆虫の生息環境を再現した大温室があり、一年中チョウが飛び交います。昆虫園本館では日本で唯一の展示となるグローワームやハキリアリなどをご覧いただけます。また、多摩丘陵の自然の地形を活かしホタルの生息できる環境づくりにも取組んでいます。

ウォッチングセンター

ウォッチングセンターでは様々な企画展を行うほか、参考書籍の閲覧、動物相談のコーナーや、野生生物に関する講演会などを行うホールがあります。

野生生物保全センター

生息域内・外での保全、バイオテクノロジーの応用などを通して、野生生物の保全活動に取組んでいます。また、環境省が進めるトキ保護増殖事業に協力するため、佐渡トキ保護センターからトキを預かり、非公開エリアで飼育し、順調に繁殖を進めています。

葛西臨海水族園

Tokyo Sea Life Park

東京の水辺から北極、南極を含む世界各地の海で収集された多様な生物をその環境とともに展示する施設です。「海と人との交流の場」をテーマとして、「生態」「環境」「食育」を学ぶことのできる場です。

開園年月日 平成元年(1989年)10月10日　所在地 東京都江戸川区　面積 8.6ha　来園者数 336,135人(令和2年度)

飼育動物 934種 28,761点(令和3年3月31日現在) 内訳:鳥類9種・爬虫類3種・両生類10種・魚類467種・無脊椎動物445種

クロマグロ

ウィーディシードラゴン

フンボルトペンギン

本館

本館では、クロマグロや、アカシュモクザメなどの外洋性サメ類を展示する「大洋の航海者」に始まり、「世界の海」、「渚の生物」、「ペンギンの生態」、「海藻の林」、「東京の海」、「発光生物」、「海鳥の生態」で構成されています。

水族園の中で最も注目される「大洋の航海者」エリアでは、ドーナツ型大水槽で主にマグロ類を、サメ水槽にてアカシュモクザメなどのサメ類のほか、マイワシの群泳を展示しています。

また、太平洋、大西洋、インド洋や北極海・南極海など、世界の海から収集した希少種や東京湾の身近な魚から伊豆諸島、小笠原にくらす生物まで東京の海の多彩な魅力を見て感じることができます。

また、海を生活の場とする鳥の飼育展示にも力を入れており、北半球にすむエトピリカなどの海鳥や南半球に住むペンギン類の生態を展示しています。

水辺の自然

本館からの退園ルートにある「水辺の自然」。かつての自然が豊かだったころの東京の淡水環境が再現されている淡水生物館では、「池沼」、「渓流」、「ため池」の環境を再現し、そこにくらす生物を展示しています。

井の頭自然文化園

Inokashira Park Zoo

日本産動物を中心に飼育展示しており、身近な動物とのふれあいを通じた体験機能を強化しています。また、日本産動物の生息地と連携した保全活動や武蔵野の自然や彫刻館などの文化施設を活用した教育普及活動にも力を入れています。

開園年月日 昭和17年(1942年)5月17日　所在地 東京都武蔵野市　面積 11.6ha　来園者数 381,250人(令和2年度)

飼育動物 172種 3,228点(令和3年3月31日現在) 内訳:哺乳類32種・鳥類64種・爬虫類9種・両生類10種・魚類42種・無脊椎動物15種

ニホンリス

ミヤコタナゴ

オシドリ

動物園(本園)

展示の主役は日本に生息する動物たちです。キツネやアナグマなどの里山の動物、山間に住むニホンカモシカやヤマドリなどを展示しています。また、「リスの小径」は動物舎の中を通り抜けながら愛らしいニホンリスを至近距離で見ることができます。昆虫や小動物をじっくり観察できる「いきもの広場」やモルモットのふれあいコーナーでは、生き物を間近に感じることができます。

そのほかにも、彫刻園では、長崎県の平和祈念像で有名な彫刻家北村西望の多くの彫刻作品を展示しているほか、詩人野口雨情の書斎を移築した童心居、様々なテーマの特設展を行う資料館などが併設されており、動物園と文化施設が調和した施設となっています。

水生物園(分園)

日本産の淡水生物を展示する「水生物館」では、河川の上流から中流域にかけて見られる魚類、爬虫類、両生類などを展示しており、国内の動物園・水族館では唯一、世界でただ1種水中で生活するクモであるミズグモを常設展示しています。

また、カモ、ハクチョウ、サギやツルなどの水鳥類の貴重なコレクションやコールダックのふれあい活動も行っています。

TOPICS

特に注目していただきたいテーマをピックアップし、ご紹介します。

TOPIC 001

大切な人と動物を守るため「新しい動物園・水族園の楽しみ方」

新型コロナウィルス感染症の拡大を受け、都が提唱したソーシャルディスタンスやマスクの着用などの「新しい日常」に加え、都立動物園・水族園では、来園者の皆さまの安全・安心を確保し、動物たちを守るため、「新しい動物園・水族園の楽しみ方」として、一箇所に長時間立ち止まらないことや、展示ガラスに触れないことなど、観覧ルールの呼掛けを行っています。また、上野動物園や葛西臨海水族園などでは、インターネット事前予約制を導入し、密を発生させない取組みを行っています。今後は５Ｇなどの先端技術を活用し、リアルタイムに園内の混雑状況がわかる「混雑マップ」の提供を開始するなど、より安心してご来園いただけるよう、運営を行ってまいります。

QRコードを使用した入場整理券の運用

パンダ舎でのソーシャルディスタンスの表示

混雑状況をお知らせする「混雑マップ」

TOPIC 002

オンラインでの双方向型プログラムの開発・実施

都立動物園・水族園では、来園者に楽しみながら学んでいただく機会を提供するため、様々な教育普及活動を展開してきましたが、新型コロナウィルスの感染拡大により、多くのプログラムが実施困難な状況となりました。このため、従来の企画に代わり、新たにオンラインによるイベントの開発・実施に取組んでいます。双方向型プログラムとすることで、PCやスマートフォンから気軽に質問が可能となり、理解が一層深まるほか、障がいをお持ちの方や、遠隔地にお住まいの方など、来園が困難な方々にもご参加いただけるなど、新たな効果も生まれています。

YouTubeLIVE夜の水族園

Web版うえのZOOスクール

オンラインでの学習プログラム「海のあそびや」

TOPIC 003

「認定希少種保全動植物園等」としての保全活動

絶滅の恐れのある希少野生生物を守るため、環境省や様々な団体と連携して、保全活動に取組んでいます。葛西臨海水族園は令和３年１月に「認定希少種保全動植物園等」制度により、都立動物園・水族園で最初に認定されました。この制度は希少種の保護や増殖について一定の基準を満たす動植物園等を環境大臣が認定する制度です。３月には井の頭自然文化園も認定され、今後は上野と多摩もこの認定を受けることで、環境省が実施する国内希少野生動物種の保護増殖事業に貢献するとともに、小笠原諸島の固有種などの保全活動を一層推進していきます。

小笠原の希少陸産貝類アナカタマイマイ

小笠原固有種のアカガシラカラスバト

認定希少種保全水族館の認定

TOPIC 004

Meet the Lions! 多摩動物公園ライオンバスの再出発

昭和39年５月の運行開始以来、長年多くの来園者に親しまれてきたライオンバスですが、発着場の耐震化工事のため、平成28年４月１日より運行を休止していました。そしてこの度、整備工事が完了し、新たな環境へのライオンの馴致、バスの運行訓練を行い、営業運行を再開いたします。新しい発着場はバリアフリー対応のエレベーターが設置されるほか、バスに乗車しない人もガラス越しにライオンを間近に観察できる情報発信基地「ライオンバスステーション」として生まれ変わります。また、乗車時間を指定できる券売システムを導入し、園内での時間をより快適に過ごしていただけるよう、サービスの向上に努めてまいります。

HPバナー

ライオンバスとライオン

ライオンの雄

概要

法人名	公益財団法人東京動物園協会
所在地	東京都台東区池之端2-9-7 池之端日殖ビル7階
設立	昭和22年12月24日（任意団体として発足） 昭和23年11月 1日（財団法人設立許可） 平成22年 4月 1日（公益財団法人へ移行）
事業目的	動物園及び水族園の事業の発展振興を図り、 動物とその生息環境について知識を広め、 人と動物の共存に貢献すること

代表者	理事長　今村 保雄
役員等	理事12名、監事3名、評議員16名
職員数	460名 （うち97名は東京都派遣職員）
基本財産	6億円
総事業費	91億円（令和3年度予算額）

沿革

東京動物園協会は、戦後まもない昭和23年に「動物に親しみ、動物愛護の心を養うことはヒューマニティーへの最短距離の一つと信じ」「民衆的な動物園事業の健全な発展を熱望」（設立趣意書より）して設立されて以来、動物園事業の発展振興と動物愛護思想の普及を目的として、各種事業を意欲的に推進してきました。

昭和27年1月には高松宮宣仁親王に、平成元年8月には常陸宮正仁親王に総裁へのご就任を戴き、一歩一歩着実に事業を展開しています。

昭和61年には東京都の出資団体となって都立動物園の管理業務の一部を受託し、さらに平成18年4月からは、都立動物園・水族園4園において、「指定管理者」として飼育業務を含む事業運営を全面的に担っています。そして、平成22年4月には当協会の実施する事業の高い公益性が認められ、「公益財団法人」として認定され、現在にいたります。

平成30年11月、東京動物園協会は協会創立70周年を迎えました。現在は、東京都の政策連携団体として設立当初の思いを引き継ぎながら、動物園及び水族園の事業の発展振興を図るとともに、動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献していきます。

小史

昭和

22年	12月	任意団体として発足
23年	11月	財団法人東京動物園協会設立 大村 清一　初代会長に就任
24年	7月	「どーぶつえんしんぶん」第1号発行 （「どうぶつと動物園」の前身）
26年	12月	高碕 達之助　会長に就任
27年	1月	高松宮宣仁親王　総裁に推戴
	10月	動物愛好会発足
33年	5月	多摩事業所開設
37年	7月	古賀 忠道　理事長に就任
39年	1月	「インセクタリゅム」第1号発行
	5月	ライオンバス開始
	7月	吉田 茂　会長に就任
40年	1月	多摩動物公園昆虫愛好会発足
42年	12月	岡田 要　会長に就任
49年	10月	東京ズーボランティアーズ発足に協力 飯沼 一省　会長に就任
52年	12月	「世界の動物／分類と飼育」シリーズ 全11冊刊行開始（平成3年11月完結）
55年	1月	事務局機構の整備を行う
57年	3月	恩賜上野動物園開園100周年記念事業に協力
58年	6月	太田 和男　会長に就任
61年	10月	都の出資団体となり、上野・多摩両園 管理業務の一部を管理委託される
62年	11月	国際パンダシンポジウムに協力
63年	2月	花村 仁八郎　会長に就任

平成

元年	4月	水族園事業所開設
	8月	常陸宮正仁親王　総裁に推戴
	10月	葛西臨海水族園開園
8年	6月	第4回世界水族館会議に協力
9年	4月	都の「協議団体」となる
	12月	田坂 益夫　会長に就任
10年	11月	創立50周年記念式典
11年	12月	貫洞 哲夫　会長に就任
12年	3月	「どうぶつと動物園」通算600号となる
	12月	「インセクタリゅム」終刊（通算443号）
13年	1月	動物愛好会と多摩動物公園昆虫愛好会 を統合し、東京動物園友の会を発足
	3月	ホームページによる普及活動開始
	4月	都の監理団体となる
14年	3月	恩賜上野動物園開園120周年記念事業に協力
	4月	井の頭自然文化園の管理業務の一部 及び上野、多摩、井の頭の施設維持 補修業務を管理委託される
16年	4月	会計年度を4月～翌3月に変更
17年	4月	「どうぶつと動物園」の誌面を刷新し、 季刊とする（季刊第1号＝通算658号）
	12月	東京都議会において都立動物園・水族園 の指定管理者として承認される
18年	4月	指定管理者として上野・多摩・葛西・井の頭 の4園の飼育業務を含めた全面的な事業 運営を開始する
		寄附行為変更により理事長が代表権者となる
18年	4月	浅倉 義信　理事長に就任 組織を改正し4部13課体制とする
20年	5月	多摩動物公園開園50周年 式典ほか各種記念事業を実施
	11月	創立60周年記念式典
22年	4月	公益財団法人に移行「一般会計事業」 と「指定管理者事業」を統合し、 「公益目的事業」とする
23年	8月	藤井 芳弘　理事長に就任
24年	3月	恩賜上野動物園開園130周年
	5月	井の頭自然文化園開園70周年
25年	6月	総務部（本社）を東京都台東区池之端 2丁目9番7号 池之端日殖ビル7階に移転
28年	4月	指定管理者として上野・多摩・葛西・井の頭 の4園の新たな指定管理期間の開始
	8月	塚本 直之　理事長に就任
29年	8月	中野 透　理事長に就任
30年	3月	「監理団体経営改革プラン」策定
	4月	鈴木 勝　理事長に就任
	11月	創立70周年記念式典
31年	4月	教育普及センター設置

令和

元年	7月	早川 剛生　理事長に就任
	10月	葛西臨海水族園30周年
3年	4月	今村 保雄　理事長に就任

役員等

総裁　常陸宮正仁親王

会長　貫洞 哲夫

理事長　今村 保雄

総裁	常陸宮正仁親王	
会長	貫洞 哲夫	（元東京都副知事）
評議員	林 良博	（国立科学博物館顧問）
	高橋 茅香子	（翻訳家）
	松島 トモ子	（俳優）
	内山 晟	（動物写真家）
	ヒサ クニヒコ	（漫画家、絵本作家）
	海老名 香葉子	（エッセイスト）
	遠藤 秀紀	（東京大学総合研究博物館教授）
	今泉 忠明	（日本ネコ科動物研究所長）
	林 公義	（前横須賀市自然・人文博物館長）
	三浦 慎悟	（早稲田大学人間科学学術院名誉教授）
	打越 綾子	（成城大学法学部教授）
	西沢 けいた	（東京都議会環境・建設委員長）
	須藤 栄	（東京都建設局次長）
	大道 和彦	（東京都東部公園緑地事務所長）
	細川 卓巳	（東京都西部公園緑地事務所長）
	佐藤 伸朗	（公益財団法人東京都公園協会理事長）

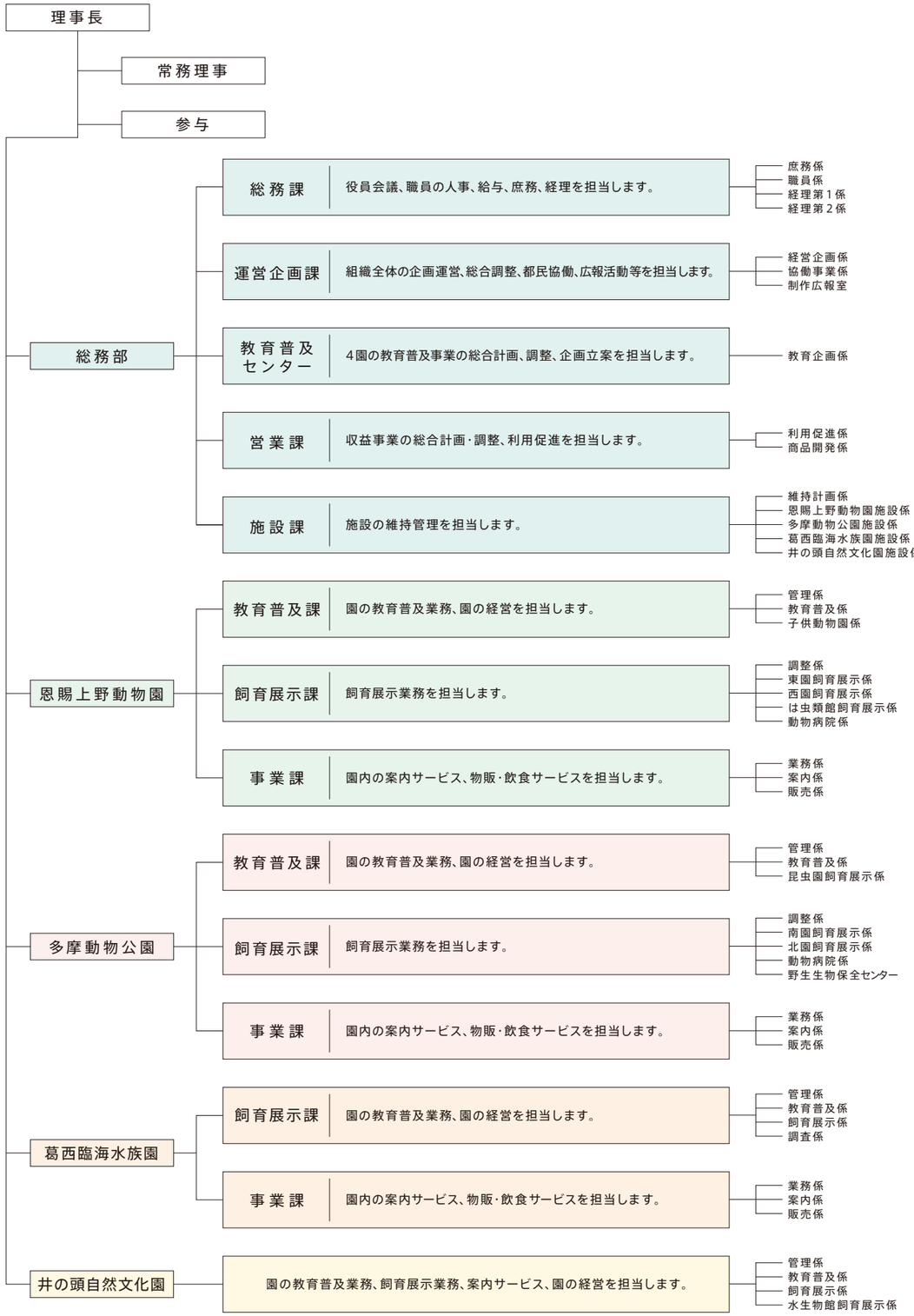
理事長	今村 保雄	（前東京都建設局次長）
常務理事	日浦 憲造	（元東京都建設局公園緑地部長）
	松山 俊樹	（前公益財団法人東京動物園協会事業調整担当部長）
理事	菅谷 博	（茨城県立自然博物館名誉館長）
	見城 美枝子	（青森大学名誉教授、エッセイスト）
	長谷川 寿一	（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事）
	西 源二郎	（東海大学海洋学部客員教授）
	加藤 奐	（京王電鉄株式会社相談役）
	鷲谷 いづみ	（東京大学名誉教授）
	村井 良子	（有限会社プランニング・ラボ代表取締役）
	尾崎 清明	（公益財団法人山階鳥類研究所副所長）
	植村 敦子	（東京都建設局公園緑地部長）
参与	日橋 一昭	（公益財団法人東京動物園協会教育普及事業担当）
監事	須賀 光一	（上野のれん会会長）
	半田 昌之	（公益財団法人日本博物館協会専務理事）
	小林 忠雄	（東京都建設局総務部長）

（令和3年6月4日現在）

機構

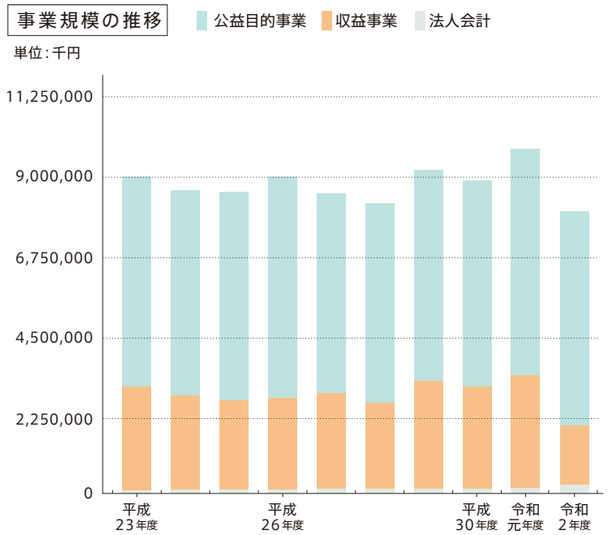
役　割	名　称	概　要
議決・監督機関	評議員会	理事及び監事の選解任、定款の変更など、協会運営に関する重要な事項を決定するとともに、決算の承認など、理事の業務執行を監督する。
執行機関	理事会	事業計画、予算の議決など、本協会の業務執行を決定する。
	理事長	本協会を代表し、その業務を執行する。
	常務理事	理事長を補佐し、本協会の業務を分担執行する。
	参与	理事長が委嘱した特定事項を処理する。
	事務局	事務に従事する。
諮問機関	顧問	理事長の特別な諮問に応える。
監査機関	監事	業務執行及び財産の状況を監査する。

組織概要



事業総括

事業規模の推移

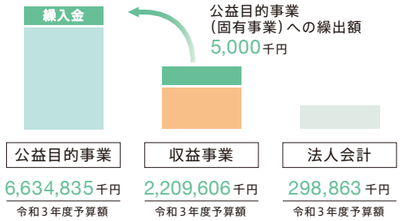


事業規模

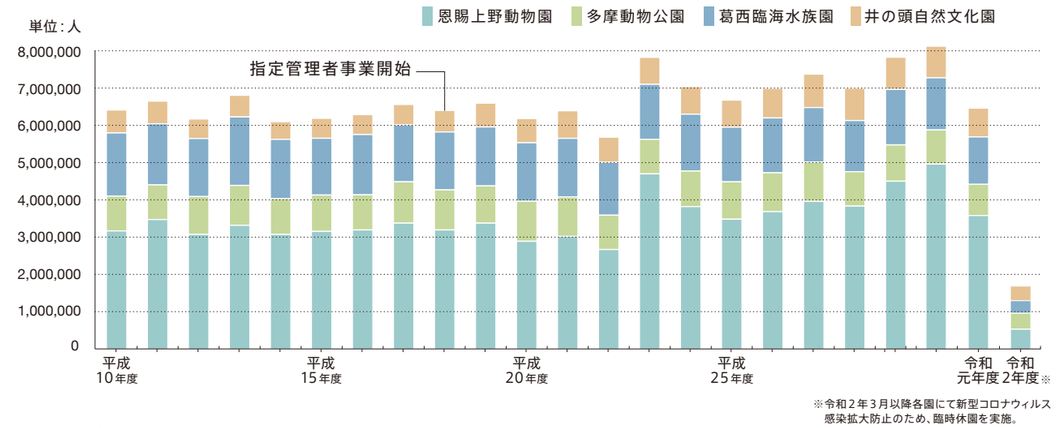
園内のギフトショップ・レストランなど収益事業の収益は、公益目的事業（固有事業）の運営資金として繰入れられ、教育普及事業などの活動経費として、動物園事業の活性化のために使われています。

累計繰入額（財団設立以降 令和２年度まで）

6,488,373千円



入園者数の推移



※令和２年３月以降各園にて新型コロナウィルス感染拡大防止のため、臨時休園を実施。

About Us

Tokyo Zoological Park Society (Tokyo Dobutsuen Kyokai) is a non-profit organization that manages and operates the zoos and aquarium owned by Tokyo Metropolitan Government: Ueno Zoological Gardens, Tama Zoological Park, Tokyo Sea Life Park and Inokashira Park Zoo.

Our mission: 1. To develop activities and services at the zoos and aquarium
2. To contribute to the coexistence of humans and wild animals by spreading knowledge about animals and their habitats

In 1947, shortly after WWII, the Tokyo Zoological Park Society was founded as a voluntary association, "believing that fostering the idea of animal protection is the best and fastest way to achieve humanity," and "aspiring to the healthy development of democratic zoo management''(from the Prospectus). The Society was chartered as a non-profit organization in 1948, and has since been fulfilling its missions by actively engaging in activities at the zoos and aquarium, such as creating publications, membership management, and other sales services.

In April 2006, the Tokyo Metropolitan Government appointed the Tokyo Zoological Park Society as a managing agent defined in the Local Autonomy Law, and has entrusted almost all the administration and management, including husbandry and exhibition, of the Tokyo zoos and aquarium to the Society. In April 2010, the Society took a new step forward by being authorized as a public interest incorporated foundation.

We celebrated our 70th anniversary in November 2018. Keeping in mind our founders' vision, we will continually achieve our mission.